

1日、再開場した福岡タワーの展望フロアは観光客や市民でにぎわった  
(撮影・下村佳史)

今年で開業30周年を迎えるのに合わせ、全面リニューアルした福岡タワー（福岡市早良区）が1日、再開場した。1989年のアジア太平洋博覧会「よかトピア」の象徴として建てられて以来、福岡観光の拠点を担ってきたタワー。生まれ変わった展望フロアからの光景を楽しもうと集まった人々の、さまざまな思いとともに、福岡のランドマークは新たな歴史を刻み始めた。

(下村佳史、郷達也)



## 福岡タワー リニューアルオープン

# 新たな歴史 市民と刻む

この日は、福岡タワー開場の1時間前から入場を待つ人が現れ始め、オープンした午前9時半には50人が列を作った。韓国や中国などからの観光客も含め、高さ123階の展望フロアでは、思い思いに記念撮影を楽しみ家族連れや恋人同士の1時間前から入場を待つ人が現れ始め、オープンした午前9時半には50人が列を作った。韓国や中国などからの観光客も含め、高さ123階の展望フロアでは、思い思いに記念撮影を楽しみ家族連れや恋人同

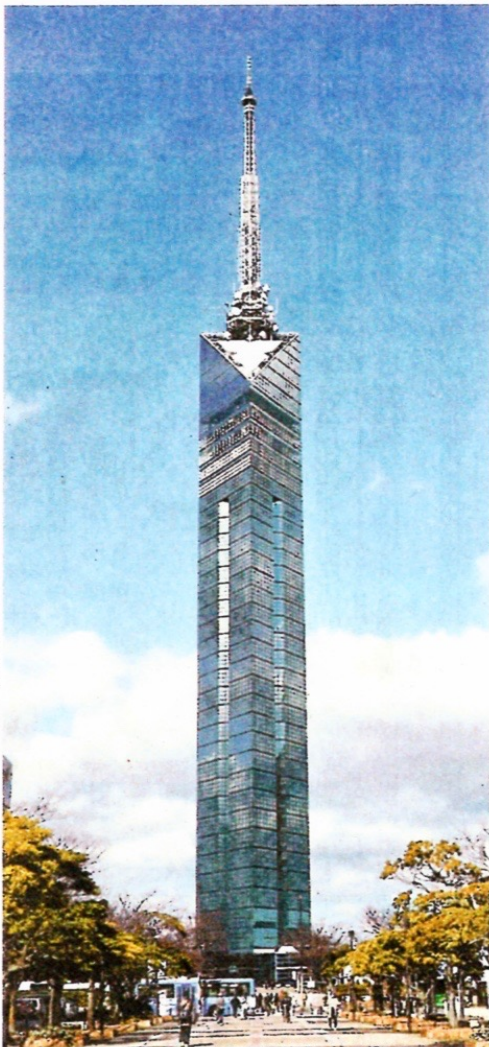
「新装したのを機に、ここから街を一望して昔の記憶を辿ってみたくなつた。あの頃はヤフオクドームはなかったし、周辺にもこんなビルは立っていないかった。福岡の発展ぶりをしみじみと感じます」。今度は孫たちを連れてきて、街の

恒例。小学生の頃に完走したという春日市の作業療法士、大石華子さん(29)は「当時はきつかったけど、きょうはエレベーターでわずか70秒で到着。もう階段のぼりは無理ですね」。一緒に訪れたいとこたちと笑い合った。

## 街の発展見つめ30年 訪問者に感慨

士、友人グループの姿が目立った。鹿児島県始良市の会社員、茅野裕司さん(41)と鹿児島市の自営業、川添美保さん(42)は、「福岡観光ならタワーに」と初めて来場。「恋人の聖地」として人気があるだけに、交際中の2人

窓辺に立ち、都心のビル群をじっと眺めていたのは、東区箱崎の松澤和福さん(79)。30年前の博覧会開催時に家族と一緒に訪れてから、30年ぶりにタワーに上ったという。



再開場した福岡タワー。1989年にアジア太平洋博覧会のモニュメントとして建てられた